

平成25年 教育委員会第21回定例会・秘密会 会議録

日 時 平成25年12月10日（火） 午後 4 時31分～午後 4 時55分
場 所 神田さくら館 7 階教育研究所研修室

議事日程

第 1 報告

【子ども総務課】

（３）平成26年度 子ども・教育部予算編成状況

出席委員（５名）

教育委員長	近藤 明義
教育委員長職務代理者	古川 紀子
教育委員	市川 正
教育委員	中川 典子
教育長	島崎 友四郎

出席職員（９名）

子ども・教育部長	大畠 康平
次世代育成担当部長	高橋 誠一郎
子ども総務課長	村木 久人
副参事（特命担当）	大井 良彦
子ども施設課長	辰島 健
子ども支援課長	亀割 岳彦
児童・家庭支援センター所長	山下 律子
学務課長	依田 昭夫
指導課長	佐藤 興二

欠席委員（０名）

欠席職員（１名）

参事（子ども健康担当）	田中 敦子
-------------	-------

書記（２名）

総務係長	久保 俊一
総務係員	田口 有美子

◎日程第１ 報告

子ども総務課

(1) 平成26年度 子ども・教育部予算編成状況

近藤委員長

これより、秘密会を開会します。

それでは、先ほど日程の最後に回しました第1、報告、子ども総務課、第3件目の議題に入りますが、よろしいですか。

子ども総務課長より報告を願います。

子ども総務課長

はい。それでは、子ども・教育部の予算編成方針についてご説明申し上げます。

平成26年度の予算ですが、本日の資料、「平成26年度 子ども・教育部予算編成方針」ということで、ホチキスどめのものを用意してございます。

最初のほうに、予算編成方針、取組内容と記載しておりますが、本日はその3ページ目からの具体の事業についてどのような予算を計上しているかということ、そちらについて主にご説明させていただきたいと思います。

こちら、独自事業、拡充事業とございますが、主に拡充事業と新規事業についてご説明させていただきたいと思います。

最初に、3ページ目の上から2番目、中学校国際教育ということで、こちらは拡充ということになっております。こちら、右の、事業の概要のご説明にもございますが、7年後の2020年の東京オリンピック、こちらを見据えまして、英語ボランティアとして活躍できる人材の育成を目指し、生徒・児童・園児の英語教育を強化するということで、中学校へのALTの派遣の増、それから、小学校、幼稚園、こども園、保育園への外国人英語講師の派遣数の増ということで、拡大要求をしているところでございます。

続きまして、その下、下から2番目ですね、きめ細かな指導の推進ということで、こちらは拡充事業でございます。小学校における理科の支援員の配置等、きめ細かな指導を行い、基礎学力の定着を図るということで、特に、平成26年度は、全小・中学校で英語・漢字検定を実施するなど、英語・国語力の向上を図るということで拡充を図っていきたいと考えております。

それから、めくっていただきまして、次のところ、まず、一番上、中学校課外ゼミということで、区立学校における土曜日の活用実態や、他自治体における土曜日授業の実施状況等を踏まえまして、中学校土曜学習教室を見直し、新たに各学校の判断で放課後等を実施できる「中学校課外ゼミ」、こちらを実施する事業予算を新規で計上してございます。

それから、その下、共育マスタープランの策定ということでございますが、こちらは新規事業となっておりますが、現在の共育マスタープランが、平成22年度から26年度までの5年間の事業期間となっておりますので、平成27年度に向けまして、新たなプランを策定するということでございます。

それから、そのページ、下から2番目ですね、私立保育所補助金、それから、一番下、私立保育所等整備補助ということで、こちらにつきましては、私立保育園に対する運営経費の助成、それから入所児童の処遇の向上と保育所運営の健全化を図るということで、そのほか、増加します保育需要に応え

るため、富士見地区に定員80人程度の私立認可保育園を誘致しまして、施設整備経費を助成するというものでございます。こちらも拡充事業となっております。

それから、同じく保育所関係で、次の5ページの一番上、認証保育所等補助金ということで、認証保育所、こちらは東京都独自の制度でございますが、平成26年度は新たに認証保育所と小規模保育所を各1つずつ開設するというので、拡充事業としております。

それから、その次の次ですね、放課後子どもプランということで、平成26年度につきましては、麴町小学校の学校内学童クラブ、こちらの定員を30名から60名に増加するなど、全ての区民が希望する学童クラブ・アフタースクールに入所できるようにするというので、こちらも拡充となっております。

それから、一番下、二番町こどもクラブでございますが、こちらにつきましても、平成25年4月に、こちらは40名から50名に拡大しましたが、さらなる支援の充実を図っていくということで、拡充事業になっております。

それから、次のページ、一番上、ポピンズアフタースクール一番町、こちらにつきましては、平成26年4月から、一時預かり保育を開始し、さらなる充実を図るということで、こちらも拡充事業でございます。

それから、そのすぐ下、子ども・子育て支援事業計画の策定ということで、こちらにつきましては、平成25年10月に「千代田区子ども子育て会議条例」が制定され、それに基づき、子ども・子育て会議を設置いたしました。こちらの会議等の意見を踏まえながら、子ども・子育ての支援事業計画、平成27年度からを予定しておりますが、こちらを新たに策定するというのでございます。

それから、その下、子どもの遊び場確保の取組みということで、こちら、平成24年から試行ということで実施しておりましたが、今年度は本格実施ということで、現在、和泉公園と外濠公園の2カ所、さらに東郷公園と小川広場でも試行ということで実施しました。来年度は、この試行をさらに本格実施するとともに、新たに2カ所、まだ場所は未定ですが、そちらでも子どもの遊び場事業を実施したいということで、拡充事業としております。

それから、その下、子ども在宅サービスということで、保護者が病気等で一時的に家事、育児で困っている場合、一定期間ヘルパーを派遣しまして、子育ての支援を図るという事業でございます。平成26年度からは、緊急一時保育等の家事援助と育児支援ヘルパー事業を統合するとともに、子どもショートステイの対象年齢を小学校6年生まで引き上げたということで、こちらにつきましても拡充事業ということになっております。

それから、次のページに行きまして、一番上、個に応じた指導の充実ということで、こちらにつきましては、平成26年度は、学習・生活支援員の報償費を10名分増やしまして、一層の充実を図っていくということで、拡充事業ということになっております。

それから、その下、コンピューター教育ということで、小学校、中学校に教員と児童・生徒の端末間で情報共有を行えます授業支援システムやデジタル教科書の導入によりまして、教員の行う授業や教材作成、課外活動を支援しますＩＣＴ支援員を派遣します。そのほか、神田一橋中学校につきましては、生徒１人に１台ずつ端末を配置する予定でございます。

その下、中等教育学校のコンピューター教育でございます。こちらにつきましては、同様の趣旨でございますが、ＩＣＴにより情報を活用できる能力を育てるインテリジェンススクールとしての環境を整備するという事で、校内ＬＡＮ、それからインターネット回線の通信速度の向上等、さらにパソコンをタブレット型のものに更新いたします。また、クラウドシステムを導入しまして、生徒が学校と自宅間で電子教材やメモ等をやりとりできるようにするという事でございます。

以上のコンピューター関連のものについては、全て拡充ということでございます。

それから、その下、一番下にありますお茶の水小学校・幼稚園整備調査検討でございます。こちら、お茶の水小学校・幼稚園につきましては、皆様ご承知のとおり、校舎・園舎がかなり老朽化しております。そのため、建てかえ等の必要がございますが、そのための基礎調査を行うということで、新規に要望しているものでございます。

予算の個別の説明の主なものにつきましては以上でございます。

ご説明は以上です。

それから、本件につきましては、政策形成過程ということで、非公開との決定をいただいておりますが、区の平成26年度予算案、こちらの公表後に会議録を公開する手続きをとりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

近藤委員長

ありがとうございます。

報告をいただきましたが、内容的にかなりたくさんの項目についてです。いかがでしょうか。ご質問ありましたら、お出してください。

どうぞお願いします。

中川委員

この予算の中に、給食のことは入っていないのでしょうか。具体的に言いますと、学校を回っていると、栄養士の方が、非常勤なんですよ。アレルギー対策など、食に対するきめ細かな対応が必要だと思うんですけども、その中で、栄養士不在の日というのがあってもいいのかなというのを常々感じます。それをないようにしたほうがいいんじゃないかなという意見です。

学務課長

日中の非常勤、栄養士ということですかね。一般に小学校、中学校の給食ということですか。

中川委員

はい。

学務課長

来年度に向けて、学校現場サイドからもアレルギー対応、きめ細かくということで、今、非常勤については週４日ですが、週５日にしていこうという

中 川 委 員
学 務 課 長
中 川 委 員
学 務 課 長
中 川 委 員

ことで、関係部署に予算要求等をしているところです。そうしますと、週5日ということで……

5日なら毎日。

毎日という予定で動いています。

それは、予算の中には見えてこないということでしょうか。

人件費です。

人件費ですか。わかりました。

それから、もう一つ、これも人件費の関係かどうか分からないんですけども、麴町中と神田一橋中の発達支援のあり方とか体制について、来年度はどうなるのかなというのが、ちょっと見えないところがあるんですが。といいますのは、来年度、麴町中学は通級の募集をしないと校長先生がおっしゃっているそうなんです。もし通級を希望するなら神田一中へというふうに説明があったというお話なんですけど、特別支援の固定級にしても、麴町中学校が拠点になっているわけですから、そういう話は少しおかしいんじゃないかなというのを。

近 藤 委 員 長
指 導 課 長

どうぞ。

中川委員ご指摘の部分は、校内通級のお話だと思います。神田一橋中学校における通級指導学級については、これは当然、募集をしないということはありませんが、ただ、麴町中学校で試行的に行っております校内通級制度というものが、小学校で言えば九段小学校でやっていることなんですけれども、それについて、募集をするとか、しないとかという話は、一切事務局サイドでは、学校にお伝えしているものではないので、校長先生がどのような意図でそうご発言をされたのかは改めて確認をさせてください。

中 川 委 員
指 導 課 長

わかりました。私も、募集しないと行ってしまったんですけども、受け入れはしないという言葉のほうがいいですよ。募集はしないという言い方はおかしいですよ。

校内通級制度ですので、学校内にいる特別な支援が必要なお子さんに対して、校内通級の部屋で個別な指導を行うというものですので、必要があれば当然、校内通級で指導するということもありますので、該当者がいなければそれはやらないと思いますが、現在の麴町中学校の生徒さんの様子を見れば、やはり校内通級という形はこれまでどおりと判断しております。

いずれにしても、校長先生がどのような意図でお話をされたのかというのはちょっと確認をさせてください。

中 川 委 員

その続きなんですけども、今、麴町は7名、校内通級のお子さんがいらっしゃるんですよ。それが、もし増えた場合に、今、先生が1人体制ですけれども、もしもっと増えた場合に、それはやっぱり1人では大変じゃないかなというのが考えられると思うんですけども、それも人事の関係になるんでしょうか。

近 藤 委 員 長
指 導 課 長

どうぞ。

校内通級制度の先生は、非常勤講師という形になりますので、人件費にか

かわってくるものです。7名に対して1名、いわゆる個別指導になりますので、一遍に7名を指導するという事はないので、時間のやりくりで1名でも今のところはできるという判断をしております。要は、週の29時間ないし28時間の中で1対1の指導をしますので、毎時間指導をするわけではないので、これが極端に増えるようであれば、当然非常勤の職員を1名増というような形の要求はしてまいります。

中 川 委 員
指 導 課 長

それは、その状況に応じてこれからでも要求はできるということですね。

非常勤職員の予算要望というのもまさに今の時期ですので、学校の生徒さんの状況によって、増やすとか、減らすとかということに当然なってくるんです。

現在のところ、麴町中学校から、7名が極端に増えるというようなお話は伺っていないので、現在の1名での予算要望をしているところです。

近 藤 委 員 長

よろしいですか。先ほどの栄養職員の常勤、非常勤という話がありましたけれども、各学校への栄養職員の配置というのは、1校に1人ではない、以前のような2校に1名体制ですか。

学 務 課 長

今現在は、非常勤、正規、別にあるんですが、1名体制でやってございます。

近 藤 委 員 長

そうですか。わかりました。

そのほかはいかがでしょうか。

どうぞ。

古 川 委 員

7ページが一番上です。発達支援サポート、学校生活サポートなんですが、専門家の方を派遣してくださって、教職員の方に指導・助言をいただいたり、保護者への相談に対応してくださるというところです。学習生活支援員が、報償費を10名分増やすということは、10名分増えるということなんですよね。専門の方が教職員の方に指導などいただけるようなんですが、支援員の方たち向けの指導助言の機会というのは、今はないんでしょうか。教職員の方から支援員の方におりていく形なんでしょうか。

指 導 課 長

まさにそこが学校現場での学習生活支援員と、発達支援アドバイザーというんですけれども、そちらとの関係、支援員が来る日とマッチすればすぐセッティングができるんですけれども、なかなか日程が合わないので、アドバイザーから支援員が指導助言を得るとというのがなかなかできづらいということは、学校現場からも上がっているところです。

それで、今年度からは、ぜひ指導課から、支援アドバイザーからの指導助言が受けられるような、そういう研修会をぜひやってくださいということで、今年度から、こちらのほうからお願いはしてあります。ですので、来年度についても、やはり支援アドバイザーの方が教員を教えるのと同じように、特別支援教育指導員だとか学習生活支援員だとかに指導・助言をする場面は設けてまいります。

古 川 委 員
指 導 課 長

それは各校ごとに。

はい。

古 川 委 員	この心理・医療等の専門家というのが、発達支援アドバイザーのことですか。
指 導 課 長	そうです。
古 川 委 員	わかりました。
市 川 委 員	1点だけ、簡単なことの確認なんですけれども、今の7ページのところで、3年リースでということが書いてありますね。多分この3月でアンチウイルスのあれを、サービスがなくなってしまうので、次は3年間で、新しい期間に入るんですか。例えば5年とかいう期間に。問題ないんですか。
指 導 課 長	多分XPだとかOSのサポートが、マイクロソフト社でサポートを打ち切るということで、ウイルスに感染するだとか、そういうことが、来年の4月から大きな懸念になっておりまして、企業でもやはりXPからの乗りかえ、7だとか8だとかに乗りかえということがされています。 OSのサポートそのものは、10年とかというような期間があるのですが、今回、3年リースと、3年としたのが、機器の耐久性だとか、最近タブレット型のパソコンで持ち歩くことがあって、電源をつなげないでやるのでバッテリーを使うんですね。このバッテリーの使用限度が3年ぐらいだろうと言われていたんですね。そうしないと、使っていてもすぐバッテリーがなくなりましたというようなことが想定されるので、3年ぐらいから機器のハード面での耐用年数として考えたほうがいいだろうというのがまず1つあります。 それと、私どものほうでは、あと7年後に、児童・生徒1人1台の環境を構築したいというふうに考えておりまして、それを3年ごとに、今回は神田一橋中学校をパイロット校として1人1台の検証をしていただいて、3年後については、今度は麴町中学校にも入れていく。小学校のほうについても、4年生・5年生・6年生ぐらいがいいんだろうと思うんですけども、この学校にではなくて、学年で全校、8校に1人1台の環境をつくっていかうと。それで検証して、低学年にも入れていくという、3年サイクルで考えているというのが2つ目の理由です。
市 川 委 員	3年が一応めどということですね。
指 導 課 長	はい。我々は3年がめどというふうに考えています。
近 藤 委 員 長	そのほかはいかがでしょうか、ご質問は。
教 育 長	どうぞ。
	事務局から、今後の予算編成のスケジュールについて、わかっている範囲で補足で説明してもらいたいのと、それから、人件費については、平成23年度から、各事業部枠から出して、別枠で職員費という形で計上されているので、ここには挙がっていないですけれども、今ご質問のあった人件費の最終的な措置の状況とか、ここに挙げられた課題の結果とか、「出張！区長室で出た課題」とかが最終的にどういう形で予算に落ちたかということについては、また別途、教育委員会の機会に、きちんとご報告させていただきたいと思います。

中 川 委 員	すみません。1つだけ、さっきの問題、その人件費のことでつけ加えさせていただくと、例えば麴町は、来年は7名だというふうに予測はしていращやるみたいですけど、それがもし、例えばやっぱりもっとこれは支援したほうがいいというようなお子さんが出てきたりとか、そういうお子さんがまた入ってきたりとかした場合に、追加の人件費などをフレキシブルにできるということはあるのかどうか。
指 導 課 長	多分非常勤職員では、対応は難しいと考えられます。非常勤職員でないとするならば、こちらの学習生活支援員のように、報償費対応でやっていくことは可能になってくると思いますので、全く手当をしないで、そのままにするということだけは避けたいと思います。
中 川 委 員	ありがとうございます。
近 藤 委 員 長	どうぞ。
子ども総務課長	よろしいですか。今後のスケジュールなんですけど、実は、あす、区長と子ども・教育部で、こちらの予算要求内容につきまして、レビューという形で話し合いが持たれます。その場で、特に、今回こちらの表でペンディングということになっております、こちらにつきましては、財政当局から、もう少し説明が必要だということ言われているものでございますので、こちらについては十分説明していきたいと思っております。 それから、来週、もう一度さらにレビューを行いまして、その後、それでもさらに必要なものということで、落とされたものの中でさらに必要なものがあれば、復活要求ということをしていく形になります。 予定では、年内には予算の内示が出る予定ではありますが、あくまでも予定ですので、ちょっとどうなるかはわからない状況でございます。
近 藤 委 員 長	わかりました。ありがとうございます。 ほかになれば先へ進みますけど、よろしいですか。 (な し)
近 藤 委 員 長	では、特にご意見、ご質問がないようですので、先へ進んでまいります。 各課長から緊急に何かございますか。 (な し)
近 藤 委 員 長	教育委員の方からいかがでしょうか。よろしいですか。 (な し)
近 藤 委 員 長	それでは、以上で本日の日程は全て終了いたしました。 本日の定例会を閉会いたします。ありがとうございました。